

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成22年8月5日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が持っている個々の力を大切に、社会との繋がりを支援しながら、生活に楽しみや役割を持っていただき、はりのある生活を過ごしていただく。
又、生活を共にする仲間をお互いに気遣ってあげられる共同生活を送っていただく。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000887&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームふきのとう東館」はJR小樽築港駅から車で数分の高台に位置し、事業所の大きな窓からは雄大な石狩湾や小樽市街を一望する事ができる素晴らしい環境に恵まれたグループホームである。所長を始め、全職員は利用者個人の尊厳を重視して本人の意向に沿ったケアを常に心掛け、豊かな人間関係を支え合いながら生活できるように馴染みの人との関係継続支援にも積極的に取り組んでいる。地域の一市民として近隣住民や小中学校との交流も盛んに行われるなど、理念に沿って積極的に取り組んでいる。医療面においては、家族や本人の希望に応じて利用者のかかりつけ医を協力医療機関として契約して連携を取り、安心して継続的な医療が受けられるように配慮している。食事管理は専門の栄養士を中心に調理担当者を配置して、職員が少しでも多く利用者と関わりが持てるように工夫している。外食や個別支援も積極的に行い、職員間で連携を深めて本人の希望に沿った支援ができるように努めている。居室は各利用者の馴染みの物が多く持ち込まれ、自宅のような生活感があり、その人らしい個性的な居室になっている。利用者は雄大な景色を眺めながら職員と会話を交わし、明るい笑顔で穏やかに過ごしているグループホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会の一員として尊厳ある生活を支援するよう理念に掲げている。ご家族の協力も頂きながら、個々の要望や地域行事への参加を実施している。	ケア理念の中に「地域における一市民として当たり前のように生活ができ、豊かな人間関係を保ち支え合える暮らしとケアを目指します」という理念掲げ、ミーティングなどで確認して実践につなげている。理念はパンフレットと各職員の名刺に掲載し、各ユニットにも掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎年恒例のふきのとう夏祭りには多くの地域の方々を招待し、交流に努めている。 ・小・中学校の色々な催しに招待され、参加させて頂いている。中学生が毎年、雪明り、雪像作りをして下さり、交流している。 ・地域のスーパーに買い物	町内会に加入して敬老会へ参加したり、お祭りの神輿が事業所まで訪問してくれるなど、地域の一員として交流が行われている。近隣から野菜のお裾分けを頂いたり、事業所の畑の世話を手伝ってもらうなど、住民との日常的な交流も活発に行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて質疑応答により参考にして頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている、運営推進会議では民生員、ご家族、地域包括の方へ出席していただき、報告及び話し合いをしご意見や御指導を頂き、サービスの向上に活かしている。	町内会代表や民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表などが参加して2ヶ月毎に開催している。行事報告や外部評価報告、避難訓練の反省などを議題として参加者からは多くの意見が出されている。家族は代表者が参加するため、諸事情で欠席する事もある。	運営推進会議の議事録を家族に送付したり、年間の議題予定を立てるなど、より多くの家族の参加や意見が得られるように工夫し、更にサービス向上に役立てられるように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会で地域包括の方へご協力を頂きながら、行事等に町内会の方々に参加していただき、連携を密にしている。	所長は書類の提出などでほぼ毎週市役所を訪問して担当者との連携を深め、相談事があればすぐ話ができる関係を構築している。計画作成担当者も認定の更新や各種制度の手続きなどで、家族の代行として利用者と一緒に市役所を訪問している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回の外部研修に参加、内部研修の実施を行っており、職員全員が身体拘束となる行為を正しく理解して、日々のケアで身体拘束は行われていない。	身体拘束をしないケアについて独自のマニュアルを作成して内部研修を行い、日々のケアに役立てている。言葉による拘束についても常に意識して、気になる時は職員同士でも注意し合うようにしている。玄関はチャイムで出入りを把握して安全面に配慮し、夜間のみ施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止に関しては、年に数回の外部研修に参加し、内部研修にて職員全体が虐待の防止について勉強し、尊厳を守るよう努めている。 ・日頃より、職員同士で入居者様に対しての声掛けや対応を注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護、成年後見制度について外部研修に参加し、理解を深めている。しかし、内部研修などでの勉強会の機会が少なかったため、今後実施してきたい。 ・自立支援としてミーティングを行い、その方の力が発揮できるよう、援助計画にも掲げ、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はケアに対する考え方、実際の取り組み等を丁寧に説明し、質問等を受け、同意を得ている。入居者様の急な状態変化等でやむを得ない契約解除に至る場合も家族と十分に話し合い納得された上でやっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時に些細な事でも言える様な関係作りに努めている。訪問時や運営推進会議を通し、家族の意見の把握、入居者様からも積極的に意見を聞き、要望等はミーティング時に話し合い、反映させている。	家族の訪問時に積極的に会話をする事で、意見や要望も率直に言ってもらえるように工夫している。家族の意見は口頭で連絡したり記録をして職員間で共有できるように努めているが、記録方法の充実には至っていない。利用者の意見も日々のケアに活かされている。	家族からの意見の記録方法を充実させる事で職員間で内容を共有し、更に日々のケアに活かされるように期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や年に数回懇親会を行い、コミュニケーションを密にし、いつでも疑問や質問、意見等が聞ける体制を作り、職員誰もが言いやすい環境作りをしている。	ミーティングで職員は率直な意見交換を行い、行事などには職員の提案が十分活かされている。所長は必要時に職員と面談を行ったり相談に乗るなど、常に職員とコミュニケーションを図るように心掛けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の持ち味が発揮できるように職場環境を整え、職員のモチベーションが上がる様、資格取得での手当、及び役職手当等の昇給に向け、声掛けや精神的フォローを心掛けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の機会を確保し、職員の希望する研修には全て参加できるよう配慮している。職員の力量に合わせた研修の参加の機会も多く設け、知識、技術の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市GH協議会で6月より相互訪問を開始、月に1度他GHに行き、知識、技術の習得、意見交換をし、交流を深める。同時にユニット間での相互訪問を開始している。訪問後はミーティングを行い、参考になる事は取り入れて行き、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接で利用者様の表情を観察しながら、安心して入所して頂ける様、コミュニケーションを図っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前及び入居後もご家族から情報収集に協力を頂き、ご家族が不安な事などわかりやすく説明し、要望等を聞きながら可能になるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前に利用者様、ご家族、関係機関からの情報で支援しなければならない事を早い段階で見極め、アセスメントを行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様と職員は生活の中で自然に支え合う関係を築いている。年下の世代の職員は入居者様に対してできる事を、そして年長者である入居者様が職員に伝授できる事等、自然体に行われている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は御家族の思いに寄り添いながら来訪時、電話、通信等で近況報告、情報の共有を行っている。、外出、外泊等ご家族の協力を頂きながらご家族と共に入居者様を支援できるよう努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話や外出に制限はせず、入居前からの病院の通院、美容室、馴染みのお店での買い物、お墓参り等、入居者様のとりまく人や支えてきた人たちとの関係が途切れないよう、支援している。</p>	<p>家族や友人の協力を得ながら、友人の所に遊びに出かけたり毎月クラス会に出席するなど、利用者に応じて馴染みの関係が継続できるように支援している。本人の希望で、職員が送迎して葬儀に参列した利用者もいる。ハガキの投函なども支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>体調不良時に思い合った声掛けや、日常生活の中でもお互いを気遣ってあげられる関係が出来るよう、職員は調整役となり、入居者様同士の関係が円滑になる様に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った関係を大切に、入院退居後のお見舞いやご家族のご相談に応じるなど継続的支援に努めている。退居されたご家族からの要望があれば、ご自宅に訪問し、精神的フォローもを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが続けられる様に、本人の言葉や表情に職員は耳を傾け観察し、出来る範囲での買い物外出や、自宅へ一時帰宅、面会同行等、支援している。	利用開始時に家族や本人の話から生活歴などを把握すると共に、利用開始後に得られた本人の思いや意向はフェイスシートに記録して情報を蓄積し、日々のケアに活かしている。言葉で表現できない利用者の思いは仕草や表情から把握するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居段階でご家族等からご協力いただき、これまでの暮らし方等の情報をうかがい把握に努めている。利用者様からのコミュニケーションでこれからの暮らしの希望等把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの生活リズムや心身の状態を把握すると共に入居者様の持っている力に合わせながら一日の流れを各部屋に掲示している。日々の身体の変化等には柔軟に対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリング及びカンファレンスを実施しているが、状態に合わせて援助計画の変更を行い、ご家族に説明及び要望をうかがっている。	新規利用者の介護計画は1ヶ月後に見直しを行っている。定期的な介護計画の見直しは3ヶ月毎に行い、本人の思いや家族の意見を聞き、各職員のアセスメントを基に計画作成担当者が介護計画を作成して全職員で再確認している。介護計画は家族と本人に説明して確認を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	援助計画を実施しながら記録時もマーカーで印を付けている。いつもと違うと思われる気づきなどは個人記録、申し送り等で職員間で情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに柔軟な対応を努めている。(例えばテレビを見ていて選挙に行きたい、新聞を見て葬儀に出たい等)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の継続的受け入れ、地域行事の参加、近隣小中学校との交流、公園での地域の子供たちとの交流等、一人一人が楽しんで頂ける機会を作っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族と相談し、入居前のかかりつけ医及び新たな医療との関わりを支援している。	家族や本人の希望に応じて、事業所は利用者のかかりつけ医を協力医療機関として契約して連携を取り、各利用者が安心して継続的な医療を受けられるように配慮している。状況に応じて職員が受診送迎を行っているが、各協力医療機関の訪問診療が定期的に行われている。受診記録も詳細に記録して、日々の健康管理に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化が見られた場合は、かかり付け医と連携を図りながら専門医を受診する等、支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会に行き、経過を見ながら家族や医師と連携を取り十分な情報交換を行い、事業所内で対応が出来る段階で退院し、通院や訪問で治療を行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族に重度化した場合の意向や案内をしている。本人の状態変化にすばやく対応し、家族、協力医、管理者、職員がその都度話し合いをし、本人や家族の思いを優先しながら対応方針に繋げている。身寄りのない入居者様に関してはその方と十分に話し合い、本人の意向に合わせた看取り支援を行えた。	利用開始時に「看取りに関する指針」を家族と本人に説明して、事前確認書で意向を確認している。重度化した場合には新たに意向を確認して、状況に応じて看取りも行っている。開設以来3名の看取りを行い、看取り後には職員間でケアについて振り返りを行う事で、更に対応についての学びを深めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に研修会参加、勉強会及び訓練を行っている。施設内にはAEDが設置しており、急変時に適切な対応がとれるようにAEDの使用法を習得し、事故発生に備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時マニュアルを理解し、マニュアルに沿った避難訓練を年2回消防署、地域の方々の協力を頂き、避難訓練を行っている。夜間を想定しての避難訓練も行っている。	消防署で開催される年2回の自衛消防訓練に職員が参加して、災害時の対応を再確認している。今年度は近隣に声かけをして建物内部見学と避難経路説明を行い、初めて近隣住民参加のもと夜間想定避難訓練を実施している。各職員は救急救命訓練講習を定期的に受講している。	運営推進会議などを活かして、近隣との協力体制の更なる充実と、火災以外の災害を想定した対応確認や災害備蓄品について話し合いが行われるように期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の際、利用者様から苦情があり、排泄の際は特に配慮すべき事を周知徹底している。	利用者の行動を抑制するような言葉かけに注意し、少しでも訴えに沿えるように個別的な対応を心掛けている。個人情報の書類は他者から見えないような工夫で管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者様本人が希望や考えを自由に述べたり、物事を選択したり、決定したりできる場や信頼関係を築き、利用者様の希望や要望に合わせ支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、個々に一日の過ごし方を作成しているが、利用者様のペースや身体状況、要望に合わせて、柔軟な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容外出は利用者様の行きつけの店に行き、間隔も要望にあわせて行っている。衣類や化粧品の購入も要望にあわせ購入し、外出の際はおしゃれをして出かけている。普段からエレガンスケアを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつや副食等、要望に合わせて購入している。職員と一緒に盛り付けや片付け等を個々の力を見極めながら食事が楽しめるよう支援している。又、職員も同じテーブルを囲んで楽しい食事になる様、心掛けている。	調理専属の栄養士は栄養バランスと食材を吟味し、利用者の希望を入れて食事を提供している。季節の料理や畑から収穫した野菜類を食卓にのせ、また晩酌を希望する利用者の意向も受けて、食事を楽しめるように工夫している。利用者の心身の状態から、簡単な調理の下拵えや食後の茶碗拭きなどに参加している。食事中は職員も共に食卓に付き、会話を交わしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日把握している。個々の身体状態に合わせて栄養補助剤や栄養価の高いもの、食べやすさを考え提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状況にあわせ、歯ブラシ、うがいをやっている。一人ひとりの口腔状態に応じたケアの支援を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔、習慣を把握し、さりげなくトイレへの声掛け誘導、同行、介助を行っている。個々の身体状態や本人の希望を聞きながら福祉用具やオムツの使用を行っている。	個人記録で排泄時間を把握している。利用者の状態に合わせて対応し、排泄の声かけは他者に分からないように配慮している。オムツを使用している場合も日中はトイレに誘導し、布の下着に移行するなど、排泄の自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎食食時にヨーグルトを食べていただいている。館内を毎日歩いていただけるよう、声掛けを行っている。排便状態は常に把握し、下剤等を調整しながら便秘予防をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認して入浴していただいている。一人一人がゆっくり入浴していただけるよう、支援している。入浴を拒まれる方にも無理強いをせず、タイミングを見て声掛けにも配慮している。	いつでも入浴できる態勢で、基本的には午後から入浴を実施している。順番などは利用者の希望に合わせて週2回以上は入れるようにして、ゆっくりした時間の中で歌や会話で入浴が楽しめるように対応している。必要な利用者には足浴、清拭も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩や就寝のタイミングは利用者の生活習慣やその時の体調に応じて休んで頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、薬の目的や副作用、用量用法等すぐに分かる様にしている。決められた時間に服薬支援をし、様子見観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな分野をリサーチし、例えば調理の手伝い、縫い物等、日常的に場面を設け、行っている。時折、晩酌やイベント参加等で気分転換を図っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日々の買い物、散歩、外出等その日によってある個々の希望に沿える様、ご家族の協力を頂きながら支援している。</p>	<p>天候を見て、事業所周囲の住宅街を散歩したり日光浴を楽しんでいる。食事ツアーや季節の外出行事の他に、外食、買い物、趣味のカラオケなど個人的な希望に応じて外出を支援している。冬季には、事業所の別棟にある「活き活きホール」に移動し、ボランティアなどによる催しを楽しんでいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の了承を得て、ご自分でこづかいを管理されている方もいる。個々の力に応じて、外出の際にご自分でお支払されている方もいる。又こづかい帳を付ける支援もしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>要望に合わせて、自由にやりとり出来るよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様同士の関係や雰囲気を読み取り、席替えを行ったりしている。廊下やリビングに季節を感じていただけるよう、飾り付けをしている。</p>	<p>共用空間は日当たりが良く明るい。食堂を兼ねた居間の窓からは、小樽の海や街並の景観が一望できる。至る所に、利用者の作品や行事の写真が飾っており、季節感の装飾も取り入れている。廊下は移動しやすいように整頓されている。温湿度の管理を調整し、生活感のある過ごしやすい環境作りが為されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓の席は気の合った利用者様がコミュニケーションを図りやすいよう、配慮している。ソファ等を置き、思い思いに過ごせるような居場所をつくっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には馴染みのある家具や飾り物を持ちこまれる様をお願いしている。随時、ご自宅に取りに行かれたりもされ、安心して暮らしていただける様に支援している。</p>	<p>各居室に取り付けてあるクローゼットに衣類や日常品類が収納されている。馴染みの家具類や仏壇が持ち込まれており、それぞれの居室には趣味に関するもの、個人の作品、家族の写真、本類、小物などの飾りで自宅のような生活感があり、その人らしい個性的な居室作りになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内は比較的フラットな建物で各所に手摺りを設置している。利用者様の安全を確保し自立した生活出来る様、配慮している。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成22年8月3日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が持っている個々の力を大切に、社会との繋がりを支援しながら、楽しみや役割を持っていただき、生活のはりを感じながら、個々のペースで穏やかに過ごしていただく。
笑顔を決やらず、仲間のことを皆で気遣ってあげられる共同生活を送っていただく。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000887&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
	1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族の1/3くらい	
	4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
	1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように	
	2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度	
	3. たまにある		3. たまに	
	4. ほとんどない		4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 少しずつ増えている	
	3. 利用者の1/3くらい		3. あまり増えていない	
	4. ほとんどいない		4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 職員の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 職員の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 利用者の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 利用者の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族等の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族等の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			
	1. ほぼ全ての利用者が			
	2. 利用者の2/3くらい			
	3. 利用者の1/3くらい			
	4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会の一員として尊厳ある生活を支援するよう理念に掲げ、職員はミーティングでの話し合い、日々のケアの中に理念を実践するよう意識している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎年恒例のふきのとう夏祭りには多くの地域の方々を招待し、交流に努めている。 ・小・中学校の色々な催しに招待され、参加させて頂いている。 ・中学生が毎年、雪明り、雪像作りをして下さり、交流している。 ・地域のスーパーに買い物		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて質疑応答により参考にして頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている、運営推進会議では民生員、ご家族、地域包括の方に出席していただき、報告及び話し合いをしご意見や御指導を頂き、サービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会で地域包括の方にご協力を頂きながら、行事等に町内会の方々に参加していただき、連携を密にしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回の外部研修に参加、内部研修の実施を行っており、職員全員が身体拘束となる行為を正しく理解して、日々のケアで身体拘束は行われていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止に関しては、年に数回の外部研修に参加し、内部研修にて職員全体が虐待の防止について勉強し、尊厳を守るよう努めている。 ・日頃より、職員同士で入居者様に対しての声掛けや対応を都度、注意しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護、成年後見制度について外部研修に参加し、理解を深めている。しかし、内部研修などでの勉強会の機会が少なかったため、今後実施して行きたい。 ・自立支援としてミーティングを行い、その方の力が発揮できるよう、援助計画にも掲げ、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はケアに対する考え方、実際の取り組み等を丁寧に説明し、質問等を受け、同意を得ている。入居者様の急な状態変化等でやむを得ない契約解除に至る場合も家族と十分に話し合い納得された上でやっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時に些細な事でも言える様な関係作りに努めている。ご家族とは積極的にコミュニケーションを図っているが、特に要望や意見等はなかった。今後はもう少し、伺ってみることとする。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や年に数回懇親会を行い、コミュニケーションを密にし、いつでも疑問や質問、意見等が聞ける体制を作り、職員誰もが言いやすい環境作りをしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の持ち味が発揮できるように職場環境を整え、職員のモチベーションが上がる様、資格取得での手当、及び役職手当等の昇給に向け、声掛けや精神的フォローを心掛けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の機会を確保し、職員の希望する研修には全て参加できるよう配慮している。職員の力量に合わせた研修の参加の機会も多く設け、知識、技術の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市GH協議会で6月より相互訪問を開始、月に1度他GHに行き、知識、技術の習得、意見交換をし、交流を深める。同時にユニット間での相互訪問を開始している。訪問後はミーティングを行い、参考になる事は取り入れて行き、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接で利用者様の表情を観察しながら、安心して入所して頂ける様、コミュニケーションを図っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前及び入居後もご家族から情報収集に協力を頂き、ご家族が不安な事などわかりやすく説明し、要望等を聞きながら可能になるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前に利用者様、ご家族、関係機関からの情報で支援しなければならない事を早い段階で見極め、アセスメントを行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様と職員は生活の中で自然に支え合う関係を築いている。年下の世代の職員は入居者様に対してできる事を、そして年長者である入居者様が職員に伝授できる事等、自然体に行われている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は御家族の思いに寄り添いながら来訪時、電話、通信等で近況報告、情報の共有を行っている。外出、外泊等ご家族の協力を頂きながらご家族との絆を大切に支援を行っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話や外出に制限はせず、入居前からの病院の通院、美容室、馴染みのお店での買い物、お墓参り等、入居者様のとりまく人や支えてきた人たちとの関係が途切れないよう、支援している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共同生活の仲間としてお互いに優しい言葉を掛け合えるよう職員は調整役となり、入居者様同士思いやりを持って生活をして頂ける様に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った関係を大切に、入院退居後のお見舞いやご家族のご相談に応じるなど継続的支援に努めている。退居されたご家族からの要望があれば、ご自宅に訪問し、精神的フォローもやっている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが続けられる様に、本人の言葉や表情に職員は耳を傾け観察し、買い物外出や、自宅へ一時帰宅等、支援している。イベントの参加等も本人の意向に合わせている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居段階でご家族等からご協力いただき、これまでの暮らし方等の情報をうかがい把握に努めている。利用者様とのコミュニケーションでこれからの暮らしの希望等を把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの生活リズムや心身の状態を把握すると共に入居者様の持っている力に合わせてながら一日の流れを各部屋に掲示している。日々の身体の変化等には柔軟に対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリング及びカンファレンスを実施しているが、状態に合わせて援助計画の変更を行い、ご家族に説明及び要望をうかがっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	援助計画を実施しながら記録時もマーカーで印を付けている。いつもと違うと思われる気づきなどは個人記録、申し送り等で職員間で情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに柔軟な対応を努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の継続的受け入れ、地域行事の参加、近隣小中学校との交流、公園での地域の子供たちとの交流等、一人一人が楽しんで頂ける機会を作っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族と相談し、入居前のかかりつけ医及び新たな医療との関わりを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化が見られた場合は、かかり付け医と連携を図りながら専門医を受診する等、支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会に行き、経過を見ながら家族や医師と連携を取り十分な情報交換を行い、事業所内で対応が出来る段階で退院し、通院や訪問での治療を行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族に重度化した場合の意向や案内をしている。本人の状態変化にすばやく対応し、家族、協力医、管理者、職員がその都度話し合いをし、本人や家族の思いを優先しながら対応方針に繋げている。身寄りのない入居者様に関してはその方と十分に話し合い、本人の意向に合わせた看取り支援を行えた。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に研修会参加、勉強会及び訓練を行なっている。施設内にはAEDが設置しており、急変時に適切な対応がとれるようにAEDの使用法を習得し、事故発生に備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時マニュアルを理解し、マニュアルに沿った避難訓練を年2回消防署、地域の方々の協力を頂き、避難訓練を行っている。夜間を想定しての避難訓練も行っている。		
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の際は尊厳やプライバシーを確保出来る支援を常に意識し、十分に注意しながら対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者様本人が希望や考えを自由に述べたり、物事を選択したり、決定したりできる場や信頼関係を築き、利用者様の希望や要望に合わせ支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、個々に一日の過ごし方を作成しているが、利用者様のペースや身体状況、要望にあわせ、柔軟な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容外出は利用者様の行きつけの店に行き、間隔も要望にあわせて行っている。衣類や化粧品の購入も要望にあわせ購入し、外出の際はおしゃれをして出かけている。普段からエレガンスケアを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は個々の力を見極めながら、一緒に食事の準備、後片付け等を行っている。又、職員も同じテーブルを囲んで楽しい食事になる様、心掛けている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日把握している。個々の身体状態に合わせて栄養補助剤や栄養価の高いもの、食べやすさを考え提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状況にあわせ、歯ブラシ、うがいをやっている。一人ひとりの口腔状態に応じたケアの支援を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔、習慣を把握し、さりげなくトイレへの声掛け誘導、同行、介助を行っている。個々の身体状態や本人の希望を聞きながら福祉用具やオムツの使用を行っている。紙パンツに依存する事なく、状態が良くなれば布パンツに変更する等、柔軟な対応をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎食食時にヨーグルトを食べていただいている。運動不足にならないよう、リハビリ体操や館内を毎日歩いたりしている。排便状態は常に把握し、下剤等を調整しながら便秘予防をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認して入浴していただいている。一人一人がゆっくり入浴していただけるよう、支援している。時間の変更等の要望があれば柔軟に対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩や就寝のタイミングは利用者の生活習慣やその時の体調に応じて休んで頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、薬の目的や副作用、用量用法等すぐに分かる様にしている。決められた時間に服薬支援をし、様子見観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな分野をリサーチし、例えば調理の手伝い、縫い物等、日常的に場面を設け、行っている。晩酌やイベント参加等で気分転換を図っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出の要望をされる方はほとんどいないが、皆さんで食事外出は喜ばれる方が多いので2ヶ月に1度のペースで行っている。ご家族にも協力を頂きながら支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々の力に応じて、外出の際にご自分でお支払してもらるように声掛けを行い、見守りをしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙のやり取りや、お友達への電話等、要望に合わせて、自由にやりとり出来るよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下やリビングに季節を感じていただけるよう、飾り付け、お花を置いている。ことわざなどを貼り、コミュニケーションの材料にもしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓の席は気の合った利用者様がコミュニケーションを図りやすいよう、配慮している。ソファ等を置き、思い思いに過ごせるような居場所を作っている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には馴染みのある家具や飾り物を持ちこまれる様をお願いしている。随時、ご自宅に取りに行かれたりもされ、安心して暮らしていただける様に支援している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内は比較的フラットな建物だが、歩行が不安定な方が多い中で各所に手摺りを設置したり、鈴等を利用して危険を回避している。利用者様の安全を確保し自立した生活が出来る様、配慮している。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホームふきのとう東館

作成日：平成 23年 3月 2日

市町村受理日：平成 23年 3月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の議事録を家族に送付したり、年間の議題予定を立てるなど、より多くの家族の参加や意見が得られるように工夫し、さらにサービス向上に役立てられるように期待したい。	より少しでも多くの御家族が運営推進会議に関心を寄せやすいようにする。	この度の外部評価の結果送付時に会議の参加を促す案内及び、ユニットには、開催時の議事録がいつでも回覧できるよう保管している事の説明文章を同封する事とする。	H23度中
2	10	家族からの意見の記録方法を充実させることで職員間で内容を共有し、さらに日々のケアに活かされるように期待したい。	ご家族からの意見を共有することにより、更なる日々のケアに生かす。	今まで申し送りノートやCMの作成していた支援経過での記録に残していた医療やご家族のやり取りをユニットで作成し閲覧することで、職員全員が共有し、ご家族の想いも含め各入居様をより把握でき、ケアの質の向上につなげたい。	H23度中
3	35	運営推進会議などを活かして、近隣との協力体制の更なる充実と、火災以外の災害を想定した対応確認や災害備蓄品について話し合いが行われるよう期待したい。	災害備蓄品、地震時や近隣の協力体制も具体化していく	毎月開催されている火元責任者会議で取り上げ、案を具体化していく。2月25日開催時は、備蓄品の話し合いが持たれ、紙パンツ、ペットボトル、食物、拭き物、ディスプレイ等の品名があがったが、実際、どのくらいの数をどこに保管するかまでの結論には至らず、各ユニットからも意見を持ち寄る事とした。	H23度中
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。